

語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について

—「～出す」を対象として—

陳 劼懌 (ちん かつえき) *

1. はじめに

☆日本語の複合動詞は、語彙的複合動詞と統語的複合動詞に分けられる。語彙的複合動詞は統語上一語として存在し、統語的複合動詞は統語構造において後項動詞 (V2) が前項動詞 (V1) を補文に取る補文構造になっている (影山 1993)。

☆従来の研究はこの2者を分けて考えるものが多い。しかし、「複合動詞」という共通の形式を有している以上、この2者の間に何らかの連続性があり、その連続性の解明は重要な課題である (三宅 2005 : 71-72 も参照)。

●形式だけでなく、語彙的複合動詞と統語的複合動詞には意味上の連続性も見られる。

☆語彙的複合動詞は V1 と V2 の意味関係により、大きく (1) の 5 種類に分けられる (松本 1998, 影山 1999, 由本 2005)。

- (1) a. 手段 : V1 することによって, V2
切り倒す, 踏みつぶす, 押し開ける, 折り曲げる, 切り分ける, むしり取る,
(ボール) を打ち上げる, …
- b. 様態 : V1 しながら V2
尋ね歩く, 転げ落ちる, 遊び暮らす, 忍び寄る, 舞い上がる, 語り明かす,
持ち去る, 探し回る, 怒鳴り込む, …
- c. 原因 : V1 の結果, V2
歩き疲れる, 抜け落ちる, おぼれ死ぬ, …
- d. 並列 : V1 かつ V2
泣きわめく, 忌み嫌う, 恋い慕う, 慣れ親しむ, …
- e. 補文関係 : V1 という行為 / 出来事を (が) V2
見逃す, 死に急ぐ, 聞き漏らす, 晴れ渡る, 使い果たす, 呼び交わす, 掻き
回す, 使いこなす, … (影山 1999 : 195)

* 東北大学大学院生・日本学術振興会特別研究員 DC2 ; EMAIL : zardfan23@hotmail.com

☆統語的複合動詞は統語上補文構造になっているので、V1 と V2 の意味関係も自然と補文関係をなしている（由本 2005：162 も参照）。

☆統語構造上の差はあるものの、語彙的複合動詞と統語的複合動詞は補文関係という点で連続している。

⇒複合動詞の語形成における V1 と V2 の語彙概念構造（LCS）の合成という観点から、2者の連続性を考察することが可能だと考えられる。具体的な分析対象として「～出す」を取り上げる。LCS 表記は基本的に影山（1996）に従う。

2. 「～出す」の概観と先行研究

☆「～出す」は意味用法により、(2) のような分類ができる。

- (2)
- | | | |
|-------|------|--|
| 「～出す」 | 位置変化 | 他動詞：財布を <u>取り出す</u> ，家具を <u>運び出す</u> ，猫を <u>追い出す</u> ，アイデアを <u>考え出す</u> ，… |
| | | 自動詞：鳩が <u>飛び出す</u> ，虎が <u>逃げ出す</u> ，水が <u>流れ出す</u> ，血が <u>にじみ出す</u> ，… |
| | | アスペクト：雨が <u>降り出す</u> ，彼女が <u>泣き出す</u> ，酒を <u>飲み出す</u> ，… |

☆「位置変化」の用法に他動詞と自動詞の2種類があるが、そのどちらも(3)のように動名詞（サ変動詞）のV1を取れないので、語彙的複合動詞である。

- (3) a. 他動詞：*家具を運搬し出す，*アイデアを思案し出す，…
b. 自動詞：*鳩が飛翔し出す，*水が流動し出す，…

☆「アスペクト」の用法は、動名詞のV1を取れるので、統語的複合動詞である。

- (4) 彼女が号泣し出す，株価が上昇し出す，パソコンが勝手に作動し出す，…

☆①「～出す」の先行研究は記述的研究が多い（森田 1989，姫野 1999）。日野（2002）は文法化の観点でその意味用法の連続性を論じているが、語形成を論じていない。
②影山（1993，2002），今泉・郡司（2002），松本（2009）は「～出す」の語形成を論じているが、語彙的「～出す」と統語的「～出す」の関係を論じていない。

3. V1 と V2 の意味関係

☆「位置変化」を表す他動詞の「～出す」は(5)のように手段複合動詞のパラフレーズができるので、手段複合動詞に属すると考えられる((1)参照)。

- (5) a. ボールを(前に)蹴り出す→蹴ることによって、ボールを(前に)出す
b. アイデアを考え出す→考えることによって、アイデアを(世に)出す

☆「位置変化」を表す自動詞の「～出す」はさらに非能格自動詞と非対格自動詞の2種類に分けられる。

- (6) a. 非能格：動作主の意志による外部への位置変化
虎が檻から逃げ出す, 鳩が帽子から飛び出す, 子供が庭に駆け出す, …
b. 非対格：自然発生の外部への位置変化
涙があふれ出す, タンクから水が流れ出す, 岩間から泉が湧き出す, …

☆自動詞の「～出す」には「逃げ出る」「飛び出る」「あふれ出る」「流れ出る」などの類義の「～出る」が存在している(姫野1999:第5章参照)。ただし、「～出る」は(7)のように手段・原因複合動詞のパラフレーズができる点で「～出す」と異なる。

- (7) a. 非能格の「～出る」: 鳩が飛び出る→飛ぶことによって, 出る(手段)
b. 非対格の「～出る」: 水が流れ出る→流れた結果, 出る(原因)
c. 非能格の「～出す」: 鳩が飛び出す→*飛ぶことによって, 出す(手段)
d. 非対格の「～出す」: 水が流れ出す→*流れた結果, 出す(原因)

☆自動詞の「～出す」はパラフレーズで判断できないので、代わりに統語的特性を観察。自動詞の「～出す」は(8)のように、複合動詞全体の自他性がV1のそれと一致。

- (8) a. 鳩が飛び出す: 非能格自動詞+他動詞→非能格自動詞
b. 水が流れ出す: 非対格自動詞+他動詞→非対格自動詞

☆V1の下位範疇化素性が引き継がれるのは補文関係複合動詞の特徴である(由本2005:153-156)。自動詞の「～出す」は補文関係複合動詞に属すると考えられる。

☆「アスペクト」の「～出す」は統語的複合動詞なので、補文関係複合動詞である。(9)のようにV1の自他性が継承される現象が見られる。

- (9) a. 子供が泣き出す：非能格自動詞＋他動詞→非能格自動詞
 b. 雨が降り出す：非対格自動詞＋他動詞→非対格自動詞
 c. 酒を飲み出す：他動詞＋他動詞→他動詞

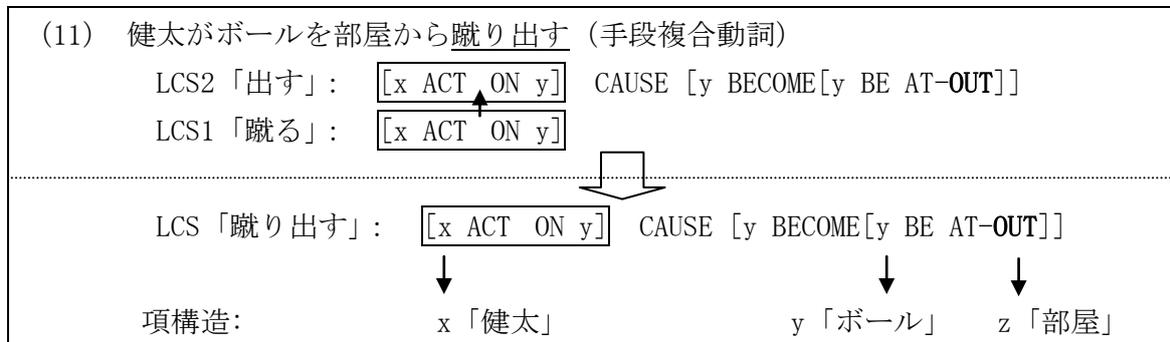
☆「～出す」における V1 と V2 の意味関係は (10) の 3 種類にまとめられる。

(10) 「～出す」の意味分類：

- a. 「位置変化」を表す他動詞→手段複合動詞（語彙的複合動詞）
 b. 「位置変化」を表す自動詞→補文関係複合動詞（語彙的複合動詞）
 c. 「アスペクト」→補文関係複合動詞（統語的複合動詞）

4. LCS 合成

☆まず (10a) の手段複合動詞の「～出す」を分析する。松本 (1998: 52) は、手段複合動詞では、V1 は V2 という複合的事象の一段階として使役行為が行われる際の具体的執行手段であると述べている。このように考えれば、手段複合動詞の LCS は (11) のように、LCS1 の上位事象を使役動詞である LCS2 の上位事象と重ね合わせることで得られる。

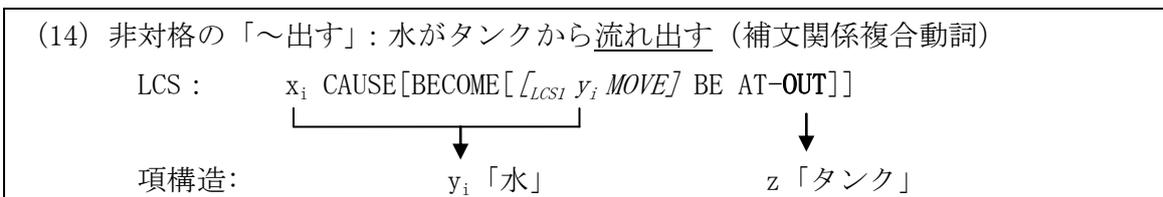


☆「出す」は「車庫から車を道路に出す」のように起点と着点を表す名詞と共起できるので、LCS の下位事象に結果位置を表す変項 z が存在するはずだが、便宜上、本発表は起点も着点も「OUT」から連結されると考えておく。

☆次に (10b) の補文関係複合動詞の「～出す」を考えよう。本発表はその LCS を (12) のように設定する。埋め込まれた LCS1 はイタリックで表示する。

(12) 補文関係複合動詞の「～出す」: x CAUSE[BECOME[*[LCS1]* BE AT-OUT]]

☆「飛び出す」と「流れ出す」を例に補文関係複合動詞の「～出す」を分析する。

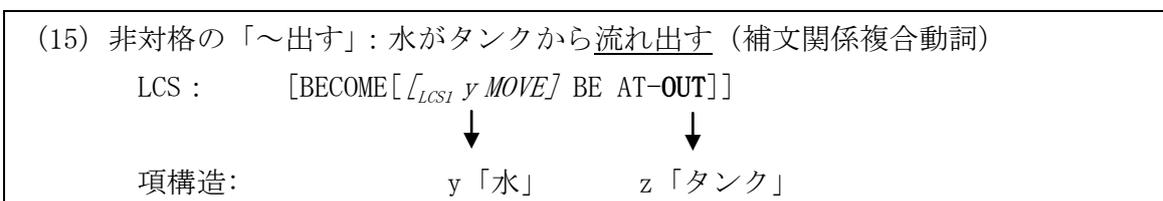


☆補文関係複合動詞ではV1の下位範疇化素性が継承される。(13)では、LCS1「飛ぶ」は「動作主が自分自身の移動を引き起こす」ということを意味する非能格自動詞なので、「飛び出す」は非能格自動詞として振る舞う。また、(14)ではLCS1「流れる」は非対格の移動動詞なので、複合動詞全体も非対格自動詞となる。

☆語彙的複合動詞では、V1とV2の主語の一致が必要である（松本1998、由本2005）。

(13)(14)はLCS1とLCS2の主語一致により、LCS1の位置変化を表すと同時に、主語の位置変化をも意味する。また、(13)(14)では起点の「カラ格名詞」はLCS2の「OUT」から連結される（LCS1にとって起点は必ずしも必須ではないから）。

●ただし、非能格自動詞の「～出す」と違い、非対格自動詞の「～出す」は「*早く流れ出そう/*早く流れ出せ」のように意向表現と命令表現にそぐわない。この現象は非対格自動詞の「～出す」のLCSは(15)のようにLCS2に外項が必ずしも必要でないことを示唆している。



☆最後は統語的複合動詞の「～出す」である。統語的複合動詞の「～出す」は(16)のように、非対格自動詞と複合した時はもとより、他動詞或いは非能格自動詞と複合しても、意向表現や命令表現が不自然である（森田1989:644、姫野1999:99も参照）。つまり、統語的複合動詞の「～出す」は、最初からLCS2に外項がないと考えられる。

- (16) a. 他動詞 V1 : 彼が (急に) 本を読み出す→*読み出そう/*読み出せ
 b. 非能格 V1 : 彼女が (急に) 泣き出す→*泣き出そう/*泣き出せ
 c. 非対格 V1 : 雨が (急に) 降り出す→*降り出そう/*降り出せ

☆統語的複合動詞の「～出す」は開始のアスペクトを表すので、本発表はその LCS を (17) のように設定する。結果項「SUDDENLY START」は「突然の開始」を表す。

- (17) 統語的複合動詞の「～出す」: [BECOME[*[LCS1]* BE AT- SUDDENLY START]]

☆「泣き出す」を例に統語的複合動詞の「～出す」を分析する。

(18) 彼女が (急に) <u>泣き出す</u> (統語的複合動詞)	
LCS :	[BECOME[<i>[LCS1</i> x ACT] BE AT- SUDDENLY START]]
	↓
項構造:	x 「彼女」

☆ (18) では、埋め込まれた LCS1 が非能格自動詞なので、「泣き出す」は非能格自動詞として振る舞うように見える。ただし、(18) では主要部 LCS2 に外項がないので、複合動詞全体は自然発生の非対格事象を表す。つまり、統語的複合動詞「～出す」はあくまでも傍観者として LCS1 事象を自然に開始するように描写しているだけである。

5. 「～出す」における語形成の連続性

☆語彙的複合動詞のうち、手段複合動詞の「～出す」と補文関係複合動詞の「～出す」は (11)「蹴り出す」(13)「飛び出す」(14)「流れ出す」で見たように、ともに「OUT」という結果項を有しているので、「外部への位置変化」という意味で連続している。

☆補文関係複合動詞の「～出す」と統語的複合動詞の「～出す」は (13)「飛び出す」(14)「流れ出す」(18)「泣き出す」で見たように、ともに補文構造の LCS を有するので、構造上連続していると言えるが、(13) (14) は LCS2 に外項がある点で、(18) と異なる。ただし、「流れ出す」は (14) だけでなく、(15) の LCS も可能なので、(18) の LCS に近い。

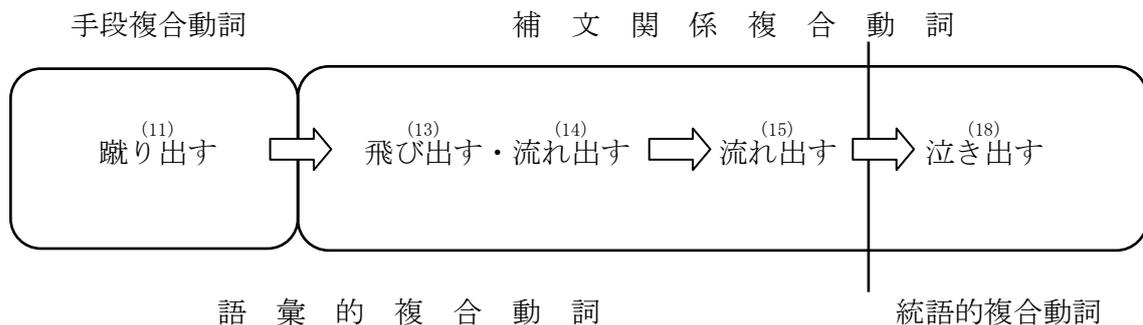
☆ (13) (14) (15) において、LCS1 全体が BE の主語であり、直接に結果「OUT」にかかっている。LCS1 事象全体の外部への位置変化は、LCS1 事象が現れることに等しいので、(13) (14) (15) の「OUT」は、(18) の「SUDDENLY START」に非常に近い役割を發揮すると考えられる。

☆以上のように補文関係複合動詞の「～出す」と統語的複合動詞の「～出す」は、LCS構造上だけでなく、意味上も連続性が見られる。本動詞の「出す」が位置変化を意味する点からすれば、この2者には(13)「飛び出す」・(14)「流れ出す」→(15)「流れ出す」→(18)「泣き出す」という派生の方向性が存在していると考えられる。

☆残された問題は、(11)の手段複合動詞の「～出す」と(13)(14)の補文関係複合動詞の「～出す」の間にある派生方向である。「*子供が勉強することを出す」のように、本動詞の「出す」は事象項を取れない(つまり補文構造のLCSではない)ことから、(11)の手段複合動詞こそが派生の元だと考えられる。ただし、(11)から(13)(14)になる原因とメカニズムは不明であり、さらなる考察が必要である(手段複合動詞と補文関係複合動詞の間の派生方向について陳2010, 2011も参照)。

☞まとめ:「～出す」の語形成における連続性・派生関係は以下のように図示できる(百留2002の通時的分析にも類似した派生の方向が見られる)。

(19)



- LCS合成から語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性・派生関係にはアプローチできるが、なぜ統語的複合動詞が統語構造において補文構造になっているかを説明できない。複合動詞のLCSと統語構造との対応関係についての分析を今後の課題としたい。

参考文献

- 今泉志奈子・郡司隆男（2002）「語彙的複合における複合事象—「出す」「出る」に見られる使役と受動の役割」, 伊藤たかね（編）『文法理論：レキシコンと統語』pp. 33-59, 東京大学出版会.
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房.
- 影山太郎（1996）『動詞意味論—言語と認知の接点—』くろしお出版.
- 影山太郎（1999）『形態論と意味』くろしお出版.
- 影山太郎（2002）「非対格構造の他動詞—意味と統語のインターフェイス」, 伊藤たかね（編）『文法理論：レキシコンと統語』pp. 119-145, 東京大学出版会.
- 陳劼懌（2011）「語彙的複合動詞における語形成の連続性」『国語学研究』50, pp. 57-71, 東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会.
- 陳劼懌（2012）「語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性について—再試行を表す「～直す」を対象として—」『国語学研究』51, pp. 64-78, 東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会.
- 日野資成（2002）「複合動詞「～出す」の分類：統語論的・意味論的方法を使って」『日本研究：国際日本文化研究センター紀要』第25号, pp. 135-147, 国際日本文化研究センター.
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房.
- 百留康晴（2002）「複合動詞後項「～出す」における意味の歴史的変遷」, 『文化』66（1・2）, pp. 17-33, 東北大学文学会.
- 松本曜（1998）「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114, pp. 37-83, 日本言語学会.
- 松本曜（2009）「複合動詞「～込む」「～去る」「～出す」と語彙的複合動詞のタイプ」, 由本陽子・岸本秀樹（編）『語彙の意味と文法』pp. 175-194, くろしお出版.
- 三宅知宏（2005）「現代日本語における文法化—内容語と機能語の連続性をめぐって—」『日本語の研究』1(3):61-76, 日本語学会.
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店.
- 由本陽子（2005）『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』ひつじ書房.